

19

ぎふの木で学校まるごと木製品導入事業

(R2実績額:13,193千円/R2予算額:14,500千円)

事業概要 学校等の木製机・椅子等の導入の支援**担当課** 林政部 県産材流通課

1 事業の目的

- ・公共建築物等木材利用促進法に基づき、公共施設等における県産材利用をより一層促進するとともに、木材利用や環境保全に対する理解を深めるため、特に啓発効果の高い教育関連施設等に木製の机、椅子等の木製品導入を促進します。

2 事業の内容

- ・保育園や小中学校等で使用する木製の机、椅子等の導入に対し支援します。
 - 補助対象者：市町村、学校法人、社会福祉法人 等
 - 補助率：1/2以内（机・椅子については補助金の上限額18千円/セット）
 - （※常設版木育ひろばの認定を受け、当該事業により木製品（家具等）を購入する場合は10/10以内。上限400千円/施設）

3 目標値と実績値

項目	目標値の考え方	R2年度 実績値/計画値	R2年度までの実績値 /5年間の目標値
導入製品数	教育関連施設への 木製品導入数	866セット・個 /1,200セット・個	5,622セット・個 /6,000セット・個

4 事業担当課における自己評価

- ・H29～R1年度は年間30施設への補助実績がありましたが、関連事業である常設版木育ひろばの認定が当初の計画を達成し、R2年度から一時休止されたことに伴い、当該施設に対する支援も休止となったことから、補助実績は18施設で、導入木製品数866個と少なくなりました。また、1施設あたりの導入個数も減少しています。
- ・導入製品数は計画値を下回りましたが、机・椅子だけでなくロッカー、棚、下足入れなどさまざまな木製品を多くの施設で提供でき、幅広く木材を利用できることをPRできました。
- ・幼稚園より小中学校での事業実施が少なく、児童机の天板を県産材に替えるなどの事業を多くの小中学校で行う必要があります。導入事例を各市町村に紹介するなどして、引き続き普及啓発していきます。
- ・今後も教育施設で木製品のニーズは大きいと見込まれるため、引き続き事業を実施し、利用者の木材利用や環境保全に対する理解を深めていきます。

5 事業評価審議会における第三者評価

- 概ね効果的に実施・執行されている。
 - ・木材使用量がわかるような目標値も検討していただきたい。

6 令和2年度事業の実施状況

①事業整備内訳

18施設において866セット・個の木製机・椅子等の導入が進みました。

施設所在市町村	事業主体	導入施設名称	導入製品	導入数量(セット・個)	森林・環境税(千円)
各務原市	(学)小島学園	ひよし幼稚園	ロッカー 上着掛け 下足入れ 等	25	3,519
瑞穂市	(学)総純寺学園	清流みずほ認定こども園	収納棚	6	148
大垣市	(学)真徳寺学園	みつづかこども園	オープン棚 ロッカー 下足入 机・椅子セット	169	2,987
関市	関市	緑ヶ丘中学校ほか7中学校	児童用机	380	2,926
美濃加茂市	美濃加茂市	山之上小学校	学校机	35	56
土岐市	(社福)慈光福祉会	ときつこども園	ロッカー 机・椅子	11	449
下呂市	下呂市	萩原小学校 萩原南中学校	木製机・椅子	140	1,294
高山市	高山市	西小学校 清見小学校 東山中学校	木製机・椅子	100	1,800
合計		18施設		866	13,179

(その他事務費 14千円)



山之上小学校(美濃加茂市)



ときつこども園(土岐市)

②利用者の声

調査先：令和元年度にぎふの木で学校まると木製品導入事業を実施した補助事業者

調査方法：アンケート形式

調査期間：令和3年1月～令和3年2月

調査結果：利用者の方の評判、ご意見

- ・木の持つ温かみや手触りがよく、子どもたちの表情が様々であり、木ならではの楽しみ方や発見がある。
- ・高級感、安心感がある。明るい感じがする。
- ・木製品に触れることで、森林の現状や活用、製品の加工工程等を知るきっかけになる。